

賛助会員功労賞

日本色彩学会賛助会員功労賞を受賞して

Received the Award from the Color Science Association of Japan

日本色研事業株式会社 河合 耐

Tsuyoshi Kawai, JAPAN COLOR ENTERPRISE CO., LTD

この度は、日本色彩学会賛助会員功労賞を受賞し、感謝申し上げますとともに大変光栄に存じます。

1948年に日本色彩科学協会が発足し、その後1970年に日本色彩学会に改称したのちの1972年に弊社は賛助会員となりました。会員となった翌年に私が生まれたことを考えると、とても歴史のある会であることをあらためて感じさせられます。

ところで私事で恐縮ではございますが、私は1996年に日本色研事業株式会社に入社し営業部に配属されました。今となっては恥ずかしい話ですが、入社当時の私は日本色彩学会を単に製品宣伝の場と思っていたように記憶しております。これはもう赤面の至りです。

さて、弊社が頒布している製品の多くは、一般財団法人日本色彩研究所が開発した「PCCS：日本色研配色体系」を保有した著作物になりますが、PCCSに限らず、色彩学会に携われてきた方々の研究および活動は、そのひとつひとつが実に貴重なものです。そして「色彩」「色」はあらゆる分野で必要とされ、貢献し、日本色彩学会の活動がいかに重要な役割を担っているかを広く認識してもらうことが、現在のわれわれの使命とっております。

その一環というわけではないのですが、研究成果や教材などの海外普及にも力を入れたいと考えています。実際、アジア圏の国から製品を購入したいがどのようにしたら良いか、などの問い合わせが年々増えております。またユーロ圏では、配色カードのその色数の多さに感動したとの声も聞いたことがあります。少し掘り下げたところでは、中国の美容業界の色彩に関する関心度の話を行いました。ひと昔前の中国では、色彩における美的感覚は個々人の感性でしたが、最近では、感性を豊かにするために色彩の学習は欠かせない傾向にあるそうです。このような話を耳にすると、日本の「色彩教育」が高く評価されていると実感します。これはまさに、先人が残した研究成果の賜物です。

海外への普及活動の一方、著作権や商標登録に絡む問題には慎重を期さなければいけません。過去に弊社製品の配色カードの模倣品が流通したこともあり、ひ

どいものになると、到底色相環と呼べるものではない色相環のポスターに「日本色研製」と明記しているものもありました。このように模造されたもの、間違った解釈、歪曲された研究成果が広まることに危惧を覚えます。

最後になりますが、当社の製品は日本色彩研究所の監修のもと、直接の指導を受け、企画、製造され、幼児から小中高の図画工作・美術、デザインの専門教育から企業研修まで、幅広いニーズに応えるべくテキストや教材・教具、検査機器、各種資料や色彩設計ツールなどを頒布しております。これらの製品のほとんどが色票、印刷物といった実物を見て・触れて学習するものです。現実のものを色票で確認することはとても大切なことですが、パソコンが欠かせない現代にマッチした製品化にも取り組んでいます。既に頒布されている、調査用カラーコードデジタル版「－色彩集計ソフト－PCCS Color Calc」(参照：<https://www.sikiken.co.jp>)や、その他、RGB値やCMYK値に対応できる製品も開発中です。

また、CIE色差1単位レベルで100色を再現した「100hue test (100色相配列検査器)」は、高い精度を要求される色彩識別能力をテストするための色彩弁別検査器で、塗料や食品業界などさまざまな分野で採用されています。

今後は、これまで以上に色彩学会に携わる方々のご縁を大切に、日本色彩学会の活動に尽力する所存ですので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



PCCS Color Calc より